

学校現場のグローバル化に対応できる人材を育成

# 多文化教育スーパーバイザー養成研修プログラム

☑ 市内の小中学校に  
外国籍の児童生徒が増えた

☑ 外国籍の児童生徒の教育環境が  
整っていない学校がある

☑ 文化や言語の違いから  
子どもや保護者との意思疎通が難しい

☑ 学校現場の教師に外国籍の児童生徒への  
対応力を身につけさせたい

近年、日本の小中学校に入学する外国にルーツを持つ児童生徒の数が増加し、学校現場の多国籍化・多民族化が進み、多くの小中学校が様々な教育課題に直面しています。

千葉大学インターカルチュラル・スタディセンターでは、外国にルーツを持つ児童生徒の教育支援プロジェクトを実施しており、各自治体において活躍する異文化間教育のスペシャリストを育成する研修を行っています。

## 多文化教育スーパーバイザーとは？

文化の違いから生じる齟齬、摩擦、不適応、保護者との意思疎通の困難、教材選択や教科学習指導の難しさ、地域での外国人受入れに伴う理解不足など、学校が直面している「**外国にルーツを持つ児童生徒の教育課題**」に対し、**学校組織をマネジメントしながら、適切な指導・助言ができる人材**。また、**現場の教師一人ひとりの異文化資質や異文化対処能力を高める指導ができる人材**。

## 研修プログラムの概要

対 象：教務主任、指導主事、管理職など  
現場の教師を指導できる立場の方  
講 師：国際教育を専門とする千葉大学教員等  
時間数：計30時間  
場 所：千葉大学西千葉キャンパス内



## 研修プログラムの内容

- 1 多文化共生の現状と課題**  
世界における多文化共生の現状と、日本における外国人受入れの現状、外国にルーツを持つ児童生徒の定義、在籍の実態など
- 2 異文化への気づき**  
異文化に対する偏見や差別の心理学的解釈や、異文化に接触した際の心理的プロセスおよび異文化対応のメカニズムの理解など
- 3 外国にルーツを持つ児童生徒の教育**  
日本語習得過程の理解・教科学習のカリキュラム構成のあり方・母語とアイデンティティの関係理解・外国人児童生徒の異文化適応に必要な異文化間カウンセリングの基礎知識の習得など
- 4 保護者の支援**  
保護者とのコミュニケーションの方法や齟齬・軋轢への対応など
- 5 受入れ側への異文化間教育**  
受入れる学校の日本人保護者、地域住民の異文化間教育のあり方
- 6 教師のエンパワーメント**  
直面する問題や課題解決に取り組む力を身につける重要性の理解

<お申込み・お問合せ> 千葉大学インターカルチュラル・スタディセンター  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33  
chiba-ics@chiba-u.jp

# 研修プログラムの詳細

時期：6月～11月 全6日間 合計30時間

場所：千葉大学西千葉キャンパス

対象：教務主任、指導主事、管理職など、現場の教師を指導できる立場の方

募集：18名程度

講師：千葉大学インターカルチュラル・スタディセンタープログラム担当教員

料金：1名 30,000円（税込）

主催：千葉大学インターカルチュラル・スタディ（ICS）センター

備考：プログラム修了後に修了証を発行します

内容：各回の研修内容は下記のとおりです

時期	時間 日数	テーマ	研修内容
6月	3時間 ×1日	多文化共生の現状と課題	1. 世界における多文化共生の現状 2. 日本における外国人受け入れの現状 3. 外国にルーツをもつ子どもの受け入れの現状と課題
7月 8月	6時間 ×3日 (集中)	異文化への気づき	1. 自己の振り返りと気づき 2. 文化の意味、異文化理解の基礎、異文化適応のメカニズム
		外国にルーツを持つ子どもの教育	1. 外国にルーツを持つ子どもの受け入れと初期対応－見立てと初期指導のありかた 2. 言語発達と日本語習得過程 3. 思考の発達と教科学習言語の関係 4. 母語と自己アイデンティティの関係 5. 外国にルーツを持つ子ども異文化適応、心理的側面への理解
9月	3時間 ×1日	保護者支援	1. 保護者との関係構築 2. 意思疎通の課題、価値観、教育観の相違などの齟齬への対応
10月	3時間 ×1日	受入れ側への異文化間教育	1. 日本人児童・生徒、保護者、地域住民等の異文化間能力の向上 2. 異文化間教育の取り組み
11月	3時間 ×1日	教師のエンパワーメント	1. 教師の実践を変革していく自己教育力向上 2. 地域連携システム構築

※ 3時間の日は12:50～16:00（休憩10分含む）となります

※ 7～8月は3日間の集中講義となります

※研修は講義、ワークショップを組み合わせ実施します。